



特別陳列

「福井藩札と江戸時代の貨幣」

— 福井藩札発行350年記念 —

- 会場 松平家史料展示室
- 会期 平成23年9月16日(金)
～11月13日(日)
- 休館日 10月31日(月)

今から350年前の寛文元年(1661)、福井藩は地域通貨に当たる藩札(銀札)を発行しました。現存するものとしては日本最古であり、福井藩の発行以降、諸藩が藩札を出すようになったことから、わが国の貨幣史では重要な出来事の一つに取り上げられています。

今回展示しております、金貨・銀貨・銭貨や諸藩が発行した藩札を通して、江戸時代の貨幣制度の複雑さ、その形態の美しさや面白さを知っていただければ幸いです。



慶長大判(造幣博物館蔵)

1 江戸時代の金貨・銀貨・銭貨

徳川幕府は全国通用の貨幣制度(「三貨制度」)を確立させた。金貨は小判1枚を1両で数える「計数貨幣」、銀貨は重さの単位である匁(1匁=3.75g)で表す「秤量貨幣」、銭貨は「寛永通宝」1個を1文で数える「計数貨幣」である。公定相場は金1両=銀50~60匁=銭4貫文(4000文)であった。

2 福井藩札の発行と城下の豪商

福井藩は幕府の認可を受けて、寛文元年に「藩札」(銀札)を発行した。近年では備後の福山藩に続く、全国で2番目とされているが、現存最古の藩札は福井藩札である。藩札は福井城下の豪商が札元となることで藩札の信用を高めていた。

3 福井藩札と若越諸藩の藩札

福井藩が藩札を出した後、しばらく藩札の通用が停止された時期もあったが、享保15年(1730)以降は、幕末維新时期まで藩札の発行を継続した。越前若狭の諸藩では、展示中の勝山藩・大野藩・丸岡藩・鯖江藩・小浜藩などが藩札を発行している。

4 全国諸藩の藩札

明治4年(1871)の調査で、藩札を発行した藩は全体の約8割、244藩に及んでいる。金札・銀札・銭札・米札などの種類があり、中でも銀札が多かった。札紙には各地の和紙が用いられ、形状は縦長の短冊型をしたものが多数を占める。紙の色は白色が多いが、赤・青・黄・茶なども見られる。

5 太政官札

「太政官札」は、明治元年(1868)5月に明治政府が最初に発行した全国流通の不換紙幣(金札)である。新政府の高官、徴士・参与となった福井藩士三岡八郎(由利公正)が発行を建議したもので、札紙には越前和紙が用いられている。



福井藩札「銀拾匁」(寛文)(金屋吉宏氏蔵)



太政官札「金拾兩」(当館蔵)